

耐震情報連絡会(第40回)

平成19年12月18日

原子力発電安全審査課
下線部は追加報告事項

1. 耐震・構造設計小委員会及びWG

- 1) 12月25日 合同WG(10:00~12:30)、構造WG(17:00~19:30)
- 2) 1月11日 構造WG・運営管理・設備健全性評価WG・合同WGを予定

2. 柏崎刈羽原子力発電所

- 1) 12月25日合同WG
陸域の地質調査結果等の中間報告
耐震バックチェックに反映すべき事項の中間取りまとめ
- 2) 12月25日構造WG
原子炉建屋3・4号機のシミュレーション解析結果
耐震バックチェックに反映すべき事項の中間取りまとめ

3. 大間2次審査

- 1) 次回109C部会開催予定 12月21日。
- 2) 12月17日、東原主査、安全委員会事務局、保安院で打ち合わせを行った。(別紙1参照)
- 3) 打ち合わせの結果、震源を特定せず策定する地震動を含め基準地震動450ガルは変えずに、加藤論文で震源が特定できるとして扱ったM6.8以上の地震動の大きさを睨みながら、2割から3割程度の余裕をもった地震動に対して、詳細設計の段階で耐震安全性を確認することをもって、収束が図れるかどうか、検討することとした。

4. 耐震バックチェックに反映すべき事項の中間取りまとめ

- 1) 12月25日の合同及び構造WGにおいて反映すべき事項の中間取りまとめ案を検討中。
- 2) 現在、反映すべき事項として各委員からの意見を求めているところ、 及び から、「震源を特定せず策定する地震動として、今回の地震において基礎版上で観測された地震動を考慮してはどうか」とする意見が出されている。
- 3) 上記2)の件については、12月17日、JNESの設計用地震動研究会において、瀬瀬委員、杉山委員、衣笠委員、小林委員に、保安院の考え方を説明。基礎版上の観測記録を考慮することについては、「12月25日の合

同WGにおける中間報告に反映すべき事項案としては盛り込まず、さらに検討したい旨、説明した。(他の委員の意見は別紙2)

4) 杉山委員及び衣笠委員から、中越沖地震の分析結果を見極めてから判断すればよいのではないか、特定サイトの問題になるか全てのサイトの問題になるか区別して考えることといった主旨の意見があった。

5) 瀬藤委員からは、地震学の専門家として680ガル以上の地震動は起きないとする事はできない。中間報告には反映すべき事項として盛り込まなくとも、中間報告には、本報告までには、詳細に検討したうえで、今後考慮する旨の記述をすることが求められた。